

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大門小・中・中等教育学校】

学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)自律的に自分の学びを進める資質能力 (2)友達と考えを伝えあうことで学びを深め合う資質能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)児童自身が学びの連続性を意識できるよう学習を振り返る活動を行う。【単元終了後】 (2)クラウドを活用した授業づくりに取り組むことで、互いの考えを可視化したり共有化したりする。 また、共通点や差異点に気づかせ、話し合う意欲を高める。【各単元】

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
		↓
今年度の成果と 次年度の課題		①目標の達成状況 ②向上策の妥当性 結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語では、「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」問題に課題が見られた。算数では、「単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかをみる」問題や、「基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる」問題に課題が見られた。また、児童質問調査の「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらをどのように解答しましたか」という質問に対して、「最後まで解答を書くこと努力した」と回答した児童の割合が、県平均及び全国平均を下回った。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	国語では、情報を読み取る力に身に付いている一方で、根拠となる情報を引用しながら自分の考えを分かりやすく表現する力に課題が見られる。算数では、基礎的な計算技能は概ね定着している一方で、数量の関係や式の意味を理解し、日常生活の場面と関連付けて考察する力に課題が見られる。また、自分の考えや解決方法を記述によって説明することや、最後まで粘り強く解答しようとする態度に課題が見られることから、根拠を明確にして説明する活動や、考えを表現する活動の充実が必要である。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	「
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	自律的に自分の学びを進める資質能力を育むことができるよう、課題を把握し、根拠を明確にしなが り強く考え、表現する力を育成する。また、友達と考えを伝え合うことで学びを深め合う資質・能力の育 成を図る。
	B	互いの考えを比較・検討する対話的な学びを通して、考えを広げたり深めたりする力を育成する。
↓		
学力向上策の 見直し	根拠を基に考えをまとめ、最後まで自分の考えを表現する機会を充実させていく。自分の考えを説明したり、友達の考えと比較し たりする活動を通して、多様な考え方に触れながら学びを深める力を育成していく必要がある。国語では根拠を基に表現す る力、算数では式や図の意味を説明する力の向上を図る。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所